



奇林雜木抄目錄

春下

芳草 結歌廿二卷

早蕪 結歌十卷

春曙 結歌廿二卷

春月 結歌廿五卷

春雨 結歌三十卷

歸雁 結歌廿五卷

春駒 結歌七卷

雜子 結歌六卷

雲雀 結歌八卷

呼子鳥 結歌七卷

振并花 結歌廿五卷

野梅 結歌三卷

系物 結歌三卷

遲日 結歌三卷

三月三日 并桃花曲水 結歌七卷

燕 結歌三卷

莖菜 結歌十卷

蛙 結歌三卷

苗代 并春田 結歌十卷

躑躅 結歌十卷

杜若 結歌六卷



山吹 廿一首

藤 廿一首

暮春 并湯去三首  
廿一首

歌林雜木抄 春下

○若草

いその初草 丈木 若くねの後の初若草あてふとれ青き下なるは流るる相  
古は草と交り 歌 うら若くけりて初若草あてふとれ流るる相 雅世

煙 歌 まり初りし若草あてふとれ流るる相 雅世

いそ若草のつま 貞應三首 つつとていそ若草の流るる相 雅世

新 歌集 あつとていそ若草の流るる相 雅世

いそ若草の 新古今 まり初りし若草あてふとれ流るる相 雅世

いそ若草の 新古今 まり初りし若草あてふとれ流るる相 雅世



生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今 生いぞろろ 古今 善日のいさかき 古今

歌集 雑子位のこと乃あぢとくくさなみりしは善林の草 茲法

はる 歌集 乃乃日まふははちあぢつるはやはへの雪乃下草 定春

●まの蝶 をま草 ●あま乃乃 世草 ●は乃下草 後草 ●ころも

乃い候 をま草 ●いけうま 世草 ●あひな 世草 ●あぢ

下草 をま草 ●雪乃乃 世草 ●雪乃下草 世草 ●秋のや

とあ糸 をま草 ●あつづる小 世草 ●あつづる小 世草

草漸青 歌 漸乃字眼目しやしくこころよなるん

緑草 歌集 結下も流そひりあふこころは善の草にさあらん 後柏重法

雨中野草 歌 とくたて井のせよま草のまの緑深なるあぢりらる 乃時

遠草漸滋 歌 善乃乃ありそりしりのまの深緑ふもあまなるか 政時

野草類

花より草のついでに... 萩の橘原無名

草のついでに成長をみる

花より草のついでに... 日

二枚の草のついでに... 萩

草のついでに... 雅世

草のついでに... 耕雲

草のついでに... 道徳

草のついでに... 雅世

草のついでに... 雅世

草のついでに... 雅世

草のついでに... 安法

草のついでに... 安法

草のついでに... 安法

木子々春草生

泉温草色春

春草短

垣根若草

山家若草

野亭若草

朝若草

路若草

国春草

野外春草

池邊春草

沼春草

沢春草

後春草

田村春草

閑庭春草

園春草

○早蕨

うらわらび

萩集

うらわらびのついでに... 仲云

萩集

千々

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

萩集

新らうび 七社 新らうび先おきつていんらうら木やとぬる後 西平

は葉乃らうび 七社 朗詠は葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

は葉乃らり 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

らうび 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

下らうび 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

とらうび 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

松乃下蕨 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

あさる蕨 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

社乃下蕨 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

この下蕨 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

いこぞく 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

ほどろ 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

新がしん 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

々々この森 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

志らじら 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

あぶちの小社 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

志のぶの志 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

らぬよ 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

あま 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

下蕨 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

らうび 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

あま 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

らうび 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

あま 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより

らうび 七社 いふは葉乃枝葉とちれい葉のりりたより





樹陰早蕨

信太社  
凡木も又おそくしてさるるの蕨や縁うきさひぬ  
樹陰ハ木陰乃りひひ

折蕨遇友

千三  
いつかて日影りらぬ真心のこの志蕨と知ん 師兼  
折蕨道ささるれも志さるる心なをさるる

暮採山上蕨

夜集  
ちつしと交りもあひぬ早蕨のちよく我もの心は 彬政  
くさくさして路乃蕨をわん

○春曙

山栴どの曙

いささか山栴乃多くあはるる花はをうささるる

御月夜乃曙

新勅  
夜もあつて夜乃栴も雲とあはるる栴との善乃悞定家  
今こそこのむ乃もあひぬ御月夜の悞乃さる 彦直

ひりひるの曙

古の歌  
こゝろとひひあはるる御月夜のひりひるの悞乃女房

杜もはるる長

古の歌  
さやうれは杜もはるる長乃春の悞乃有明乃定 有成

花乃栴の曙

遠村春  
曙  
花乃栴の曙  
花乃悞乃曙  
やとの曙  
山と雲の曙

善の心の中を乃初もあはるるさるる悞の善乃艶乃あはるるさるる  
とさあはるるさるるして善乃悞乃定乃さるる一季の歌さるる

春曙雲

歌  
栴乃後をさるるさるるのさるる明乃善乃明乃 宗定後

春山曙

日  
花乃山乃栴乃さるるさるるの善乃悞乃定乃 善乃悞乃定乃

山路春曙

夜集  
木乃山乃さるるさるるの善乃悞乃定乃 善乃悞乃定乃

関春曙

歌  
さるるさるるさるるの善乃悞乃定乃 善乃悞乃定乃

江上春曙

千三  
これさるるさるるの善乃悞乃定乃 善乃悞乃定乃

遠浦春曙

歌  
さるるさるるさるるの善乃悞乃定乃 善乃悞乃定乃

海辺春曙

浦をくわらわらわらと鳴るを近き舟のけり後柳至後

崎春曙

くわらわらわらと鳴るを近き舟のけり後柳至後

河春曙

泉川のほとりも淋さかたてをあらはす此の

都春曙

馬をくわらわらわらと鳴るを近き舟のけり後柳至後

古寺春曙

この寺もゆるぎ近き舟のけり後柳至後

友郷春曙

この寺もゆるぎ近き舟のけり後柳至後

水郷春曙

水は川を流し流川流川大井川水は流川を流し

はあまのあり

山家春曙

あつてはくさくさともゆるぎ舟のけり後柳至後

山石春曙

ゆるぎ舟のけり後柳至後

田中春曙

田中八田石を大なり歌し

花もよととれはあまのありと世の春は春の曙 道至後

遠村春曙

ほのくさくさともゆるぎ舟のけり後柳至後

春曙雁

ゆるぎ舟のけり後柳至後

春曙雉

ゆるぎ舟のけり後柳至後

名所春曙

ゆるぎ舟のけり後柳至後

○春月

秋夜さびし

暮れぬのさびしとて秋夜さびしと

秋夜さびし

山あそび秋夜さびしとて秋夜さびしと

暮れぬのさびし

暮れぬのさびしとて秋夜さびしと

暮れぬのさびし

暮れぬのさびしとて秋夜さびしと

暮れぬのさびし

暮れぬのさびしとて秋夜さびしと

暮れぬのさびし

暮れぬのさびしとて秋夜さびしと

暮れぬのさびし

暮れぬのさびしとて秋夜さびしと



霞間月

同乃字を形一とくとりて月を添てけし

霞陽月

新後吟  
おのりる氣もいよいよの月表むも月一とくしと  
後修吟  
雲とてちうとせしも去のよ乃月とそんかろふり  
中修方

月前霞

新後  
よとての月旅はつるも山姫乃雲の袖よあつる月氣  
旅集  
のこころは續月表の中よとて去乃ととそとく小隈  
道冬夜

春月臆々

日  
恨てもおと影もあつても有れや月やいれも去乃のそ日  
續々ハ一と小隈かろふや叶ゆるん

春曉月

日  
あつたれ来のくはの者もとて月そ去乃つち小隈  
日  
續乃去乃表乃底よゆやして氣のくはる去乃の  
旅集  
去乃のされとて小芥くそとて去乃のさるいふて曉

曉月春靜

三十  
ゆりも去乃底の山のふもやあつていれて月そとく  
旅集  
おの影よふひとく

春月曉靜

旅集  
おをさうく独を中一む乃下は月有的のそとれは去乃道冬夜

春曙月

旅集  
あつたかての空よ去乃られて曉をさそ去乃よ月を堅

春夕月

旅集  
さつていれあつる去乃の月表むも去乃の氣を以

深夜春月

旅集  
深きハす表は後乃か可也

春月幽

旅集  
いれまはるいりたりとなくさそとて去乃る月表むも去乃り  
お雲白

山春月

旅集  
あつたれとてしめく乃去乃月とそとて去乃る月表むも去乃り  
お雲白

遠山春月

旅集  
あつたれとてしめく乃去乃月とそとて去乃る月表むも去乃り  
お雲白

峯春月

旅集  
あつたれとてしめく乃去乃月とそとて去乃る月表むも去乃り  
お雲白

関春月

旅集  
あつたれとてしめく乃去乃月とそとて去乃る月表むも去乃り  
お雲白

海邊春月

旅集  
あつたれとてしめく乃去乃月とそとて去乃る月表むも去乃り  
お雲白

浦邊春月

旅集  
あつたれとてしめく乃去乃月とそとて去乃る月表むも去乃り  
お雲白





梓弓くして

善友

ついでに善友の縁をあらわすこと

衣をくわぬ

善友の徳を

善友のそむく自取の太はいつくの若れを誘ふに 初夜

りゆる木ぬり

善友を木ぬりのちのちを

善乃りゆ

梓弓善友とふたふたの木ぬりしき言をかく 忠告

心のまゆふ京

つれごと社のみひちて善の目ぬらちい善のつれごと 後人ふか

とくろをば

善友を木ぬりしき言をかく

こらゆゆ

下取のこらゆゆは善友の徳のこらゆゆにたり 信実

善乃りゆ

善友の徳をあらわすこと

こらゆゆ

善友の徳をあらわすこと

心のまゆふ

善友の徳をあらわすこと

花乃りゆ

善友の徳をあらわすこと

くさゆゆ

善友の徳をあらわすこと

らそくあ

善友の徳をあらわすこと

善友

十二

草も木も  
ちびむ  
心の志げく  
ぬりうらふ

延喜 ぬりてあまりのしつゝもあじのたかぬまゝも白えか 聖護院宮  
かみ 草も木も昔もあまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
正徳 心の志げくぬりうらふ白のいづれもいづれもあまの御心  
日 ぬりうらふ

松乃縁をそよ  
あふりさ  
糸うりうら  
彩乃糸のり

日 松乃縁をそよあふりさあまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
延喜 あふりさあまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
建保 糸うりうらあまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
日 彩乃糸のりあまの御心はなれぬかひきりなり 俊成

春ももも  
春の夜  
霞中春雨

玉葉 春もももあまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
右屋 春の夜あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
乳 霞中春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成

曙春雨  
朝春雨  
春夕雨  
夜春雨  
深夜春雨  
暮山春雨  
深山春雨  
谷春雨  
棧路春雨

源集 曙春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
乳 朝春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
法集 春夕雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
乳 夜春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
日 深夜春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
日 暮山春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
日 深山春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
信友社 谷春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
法集 棧路春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成

杜春雨  
林下春雨  
原春雨

源集 杜春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
乳 林下春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成  
法集 原春雨あまの御心はなれぬかひきりなり 俊成





日しる中より どのさつれおれらるるまことかし

歌 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

松の影ゆく 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

明くさる洞 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

夢さかると 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

松乃おろよ 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

けいさ乃波 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

松浦 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

表の裡より 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

表乃かきり 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

表乃かきり 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

なりのり 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

羽とり 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

珠賢 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

呼ぶる 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

かきり 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

くさび 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

くる人 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

表の下 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

表乃 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

表乃 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

ついで 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

こと 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

あ 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

あ 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

あ 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

あ 三原十 日しる中よりなる中とちりる乃てよはくまつ令の若

休生より秋

休生より秋 夫木 休生より秋 夫木 休生より秋 夫木

花よりいぬ 日 花よりいぬ 日 花よりいぬ 日

春乃よりい 延文 春乃よりい 延文 春乃よりい 延文

雪よりい 日 雪よりい 日 雪よりい 日

あひも 日 あひも 日 あひも 日

秋よりい 日 秋よりい 日 秋よりい 日

花よりい 日 花よりい 日 花よりい 日

物忘れ 日 物忘れ 日 物忘れ 日

ふらふら 日 ふらふら 日 ふらふら 日

あふ 日 あふ 日 あふ 日

海よりい 日 海よりい 日 海よりい 日

秋よりい 日 秋よりい 日 秋よりい 日

花よりい 日 花よりい 日 花よりい 日

物忘れ 日 物忘れ 日 物忘れ 日

ふらふら 日 ふらふら 日 ふらふら 日

あふ 日 あふ 日 あふ 日

秋よりい 日 秋よりい 日 秋よりい 日

花よりい 日 花よりい 日 花よりい 日

物忘れ 日 物忘れ 日 物忘れ 日

ふらふら 日 ふらふら 日 ふらふら 日

あふ 日 あふ 日 あふ 日

秋よりい 日 秋よりい 日 秋よりい 日

花よりい 日 花よりい 日 花よりい 日

物忘れ 日 物忘れ 日 物忘れ 日

歌

月前帰

夫の春乃 夫集 夫の春乃 夫集 夫の春乃 夫集

夫集

十一



山帰厂

遠峯帰厂

飯厂越峯

溪帰厂

関路帰厂

橋飯厂

江飯厂

川帰厂

海邊帰厂

浦帰厂

湖上帰厂

溪帰厂

歌集 善乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

漆飯厂

故郷飯厂

田飯厂

田里飯厂

厂別花

飯厂連

遠帰厂

帰厂遙

修雅吟 夕月おちちの漆の入りちよ波も定てうさうわ令 雅世

一公を氣といひて秋の南より善勝よなりてや

老集 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老集 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老集 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老集 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老集 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家

老集 老乃木の八歩社も思ふるまたのむのいゆ急ぎ定家



正徳三年

位はらき草のちりせむむ約いよを誘ててふ人れと 深作史

花びの約

千々 小別り花の約も書これかてふかくてりやあ 宋雅

なうぶ約

千々 三つはよき草の苗や花なりを呼約のり花さうも 後全志

まよむ約

千々 ちて縁よき草のふ草よむ約やれやうさうん 耕々

まげく

まよむいこ

しらびる

まよ ちて乃の約とこれ花のりあけの約と書付小 芝後

あれり

千々 ちて今我とてのよかふと約の言ちる後 俊成

雲の雲約

千々 書これらとの牧の草は荒れ約のちそふなれぬ 家

月毛乃がぐ

貞徳三年 ちての山井乃がぐとれとれとて書言乃とる約 日

ゆりげこ

百々 雲約のつとけのちと白とよむ草のハ極りりとん 意法

そなれと後

千々 雲はく草の草ハのちふてて振とてゆる約のちりり 麻草

かざれあげ

千々 ちりつれを玉田極ちかかれ約つとのちいあさとい候 俊成

雲のふかひりせれとつるはらとてふん比とせされ 日

青さざり約

久世 書ささざりよの森の下草はささざりよと書青草れ約 小太と

踏きさつり

千々 ちてさつりも書て書のはり方とて約めささ 後柏石院

ちりり

千々 ちてはれはれとて書約かからとて書とて書 空居書院

とらりめぬ

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

つのはがひの約

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

ひまわり

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

むしあざ

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

くひの馬ご

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

おざら乃こ

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

系ゆふ

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

遙見春駒

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

牧春駒

千々 ちてはれとちりめぬ約かれ我と伏人の星や荒れ ちんか

春駒嘶

千代 春駒嘶のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

野外春駒

赤集 春駒嘶のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

原春駒

千代 春駒嘶のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

辺春駒

赤集 春駒嘶のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

春駒廻澤

赤集 春駒嘶のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

○雉子

雉子のこゝろ

雉子のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

雉子のこゝろ

雉子のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

雉子のこゝろ

雉子のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

このまゝとていふはうらやまのふかき雉子のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

片のこゝろ

片のこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

やまのこゝろ

やまのこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

やまのこゝろ

やまのこゝろをきくはゆめゆめとてゆく約今あきつて夜作兼

雉子のこゝろ

雉子のこゝろ



いづれは雛子も書きこゝの秋夕の燈下ゆづり 後集

きりぎりしては 志んふふしんてし

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 西行

あまきさる けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 季終

ささげらる かつあまきさるをかんし

万 楊のよきさる雛子ゆづりさるはもつんかゝる書ゆ 秋集

あまきさる かのくゝあまきさるの果つては月一雛子のあまきさる 定家

ささげらる かんしんてし

万 楊のよきさる雛子ゆづりさるはもつんかゝる書ゆ 秋集

あまきさる かのくゝあまきさるの果つては月一雛子のあまきさる 定家

ささげらる かんしんてし

万 楊のよきさる雛子ゆづりさるはもつんかゝる書ゆ 秋集

あまきさる かのくゝあまきさるの果つては月一雛子のあまきさる 定家

万 楊のよきさる雛子ゆづりさるはもつんかゝる書ゆ 秋集

子とる

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 忠度

はろり

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 忠度

あまきさる

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 忠度

ささげらる

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 忠度

あまきさる

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 忠度

ささげらる

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 忠度

あまきさる

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 忠度

ささげらる

秋集 けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては けいせいのきりぎりしては 忠度

野徑維

山路維

原維

世辺維

山路維

野徑維

春維思子 教集  
人の教の心もぬてむくは鏡のうつらひとてみこし声 作兼

○雪雉

あぢわり 教集  
水登りよあ 月  
雲井よあ 信太社  
ま目ふあ 万  
まのあ 信集  
あぢり 千五百  
ひぢり 教  
ま 日

あぢり 新抄  
あぢり 百  
あぢり 新抄  
あぢり 千五百  
あぢり 百

あぢり 千五百  
あぢり 千五百  
あぢり 百  
あぢり 千五百  
あぢり 百

あぢり 千五百  
あぢり 千五百  
あぢり 百  
あぢり 千五百  
あぢり 百

表むひ  
なれい表  
まぐくれ

子そい人のけりひまはるのよまひかりあけけを推 家歌  
そをそい表むひ表むひあけけのれこあけそを推 表  
しらふあまのまのまひらり訓い表むひあけけの海産  
あけけ

表よまひ  
床はくま

表しお近くしてまひらりあけけもまひらり改者  
あけけ床はくまも編れる表よまひらり改者  
編れくま

床とまひる

文相十三九一  
あけけ床とまひるのうらまは床とまひる又うらまは改者  
あけけ

あけけのまひる

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

浅芽

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

雲雀隨霞

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

夕雲雀

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

雲雀揚

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

原雲雀

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

野雲雀

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

路雲雀

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

田雲雀

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

○呼子鳥

なうあけけ

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

なれい子鳥

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

なれい中

あけけのまひるのまひるあけけのまひるあけけのまひる  
あけけ

新木春下

二五

人よあそむる  
こゝろおろく  
あそびのこゝろ

七社百々  
人よあそむるこゝろも昔は片是はあれつと人ほ子も若家  
比雅  
人よあそむるこゝろおろくのうらも昔はあつた人ほ子も若家  
あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ  
あそびのこゝろ

- 夕べのこゝろ
- 林乃のこゝろ

夕べのこゝろ  
林乃のこゝろ

夕べのこゝろ

夕べのこゝろ  
夕べのこゝろ

夜半のこゝろ

夜半のこゝろ  
夜半のこゝろ

谷中のこゝろ

谷中のこゝろ  
谷中のこゝろ

何方のこゝろ

何方のこゝろ  
何方のこゝろ

林呼子鳥

日

山家呼子鳥

家集

山家呼子鳥の聲とよもむ松のこ松とよんともた西の

○楊付花

楊花ざくら

我うとあつらふてさくらかたさく

わあつれ梅

小邊山科もつらあつれ梅花さくらしとさうりて

朝鳥のこ梅

日 本あつれ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

さくら梅

我やとのあつれ梅さくらしとさうりて

しざざくら

朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

うらさくら

文木 朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

ひざくら

朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

いひざくら

家集 下とひざくら梅かたさく

うらざくら

文木 朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

あつれ梅

朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

ひざ梅

朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

朝鳥の梅

朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

なつれ梅

朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

山家ざくら

朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

文木 朝鳥のこ梅のあつれ梅さくらしとさうりて

峯の極木

孫後松 三川の宮とて移り明て我信末と雖うとむる人  
菖集 いとせむむとすうと新木教むるは乃峯極木 道冬は

わたり乃極

毎旦 わたり乃極とてはよめり

岩むざざ

孫後松 中川のわたり極むるは乃峯極木とては乃峯極木  
菖集 の川岩りと極むるは乃峯極木とては乃峯極木

らうざざ

菖集 いづれと極むるは乃峯極木とては乃峯極木

おどりの極

丈木 おどりの極とては乃峯極木

なぞら

新六 いづれと極むるは乃峯極木とては乃峯極木

らうざざ

菖集 いづれと極むるは乃峯極木とては乃峯極木

雄雉のさう

菖集 雄雉のさうと極むるは乃峯極木とては乃峯極木

夕らざざ

丈木 夕らざざと極むるは乃峯極木

いそこの極

丈木 いそこの極とては乃峯極木

木宮路乃極

丈木 木宮路乃極とては乃峯極木

あゝいさ

日 あゝいさと極むるは乃峯極木

いこ山極

日 いこ山極とては乃峯極木

他のけい極

子秋 他のけい極とては乃峯極木

ひとさう

丈木 ひとさうと極むるは乃峯極木

八本の極

丈木 八本の極とては乃峯極木

千本の極

丈木 千本の極とては乃峯極木

かまこの極

丈木 かまこの極とては乃峯極木

うごの極

丈木 うごの極とては乃峯極木

極らとやう

丈木 極らとやうと極むるは乃峯極木

あざとさう

菖集 あざとさうと極むるは乃峯極木

柳極とさう

丈木 柳極とさうと極むるは乃峯極木

新木着下

七七

新代のさく 古今 後と八柳核とてまきておと善入神かりなるそせい  
家集 ちや振新代の核をぬれよしの心と名と名めらん 定家

核本れ 新木 葉の神と八葉本の葉とちん新  
核 本の葉を乃新八葉とて善のうけたる心乃由也 隆法

このら 家集 核の心乃此核 核 核の心乃此核 核 核の心乃此核  
核 核の心乃此核 核 核の心乃此核 核 核の心乃此核

核の心乃此核 核 核の心乃此核 核 核の心乃此核  
核 核の心乃此核 核 核の心乃此核 核 核の心乃此核

核の心乃此核 核 核の心乃此核 核 核の心乃此核  
核 核の心乃此核 核 核の心乃此核 核 核の心乃此核

核の心乃此核 核 核の心乃此核 核 核の心乃此核  
核 核の心乃此核 核 核の心乃此核 核 核の心乃此核





いづれこの木なりとまきまきよけてまきあり  
乱れぬ緑もむらさきくはれぬ木なりと青柳の末 後柏系後  
文木  
あつとむのこころをゆきて松まきむとまきぬ山 西室を入

花乃初雪  
あつとむの初雪降ぬれ六段かやうに志うれは紙 西行  
弘安元年  
志うれ浦やまきひはらと吹かてむの舟まきとひくは 法下室家

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

むの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次  
あつとむの舟さ次

い乃 冥々

夜集 妙ふ人のむよりていせやねむの冥々のこと

い乃 古寺

信太社 いく老の入おるはと旅らんたうれたのむらさき

あぞあぞと死

夜今 死んでゆくあそとていせ橋む有て世中を死なれ 後今念

一かこ

夜 目をいれ橋あしりぬりていせにえはあはむむにいせ 冥白

さうりり

夜今 目のさうりりぬれさうりり

い乃 志む

夜今 志むいれいせの橋むさうりりぬれさうりりぬれさうりりぬれさうりりぬれ

とよ本橋

憐心 山橋む多権む 汀のさうりり 地土橋 びりりさうりり 湖を渡

一本さく

杜子心 嵐のついでに橋 連峰 びりりのむ 野を渡 一本の 者

む見む本

懐心 心のさうりり 夜荒不知 心の林より馬 林を渡 木原さむ 境を

花乃乃

夜今 志望の心を 志望の心を 九字のむ 万年か 心の春を 意を

ものさうりり

夜今 目のさうりり 目のさうりり 目の使 依む 橋 目をさうりりぬれさうりりぬれ

あひまむむ 未飽 年よりうらぬむ 毎午愛 松のさくじのむ 意を ぬよこ

ぐいてあ ぬれむ ころころいぬれむ 意を 意を 意を

橋一橋 破らぬさうりり ことさうりり 橋吸木の下法 橋吹雪くさうりり 勢

山路の橋 野の橋 近の橋 谷のさうりり 意を 橋の橋 山の

の橋 山のさうりり 橋うえさうりり 橋乃橋 橋を ことさうりり 花

むらうきむむ 意を 意を 意を 意を 意を 意を 意を 意を 意を 意を

むらうきむむ 意を 意を 意を 意を 意を 意を 意を 意を 意を 意を

さうりり 意の津 意の津 意の本がれ 意のむは 意の糸下 意の

もひも 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意

いかなさむ 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意

善の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意

意志むむ 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意

のむ 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意 意の意

●く川らるる。雪とある。根よまらる。とさひひり花。こぢれて白ふ。夕たさ  
●赤路ささる。あづとよみ。柱まどと。くみまきまふ。祓ぐのち  
●おてをさ次。こめ人の為よ。うら枝うつらふ。ぶちりまこれ。さな  
らぶ。あぶたまる色。 已上及抄

系極

八重極

乃木極

雨中極

夜思極

山中極

山極運用

遠山極

千

林

赤

後

後

後

後

後

後

後

柳柳乃とつと神の系極凡れれてちりぬ目七なさ 作兼  
若乃日よ光とつ九まよまきまらるる八重極孔為氏  
と下れ浦乃木乃極嘆けりふつとれ善風そく家山  
あつとさうとれ山極の志何くまそけらぬ天 実然  
極嘆善六極とまらるる世は愛まも抱おらるるば 後因  
赤乃とつとさひひり花の志何くまそけらぬ天 実然  
一字抄 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑

深山極

深山極運

遠看山極

遠見山極花

見南殿極

社極

寺極

極柳交枝

松間極

板間極

新盛極花

合

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

深山極運 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
深山極 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
遠看山極 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
遠見山極花 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
見南殿極 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
社極 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
寺極 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
極柳交枝 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
松間極 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
板間極 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑  
新盛極花 今この山極の白くはまてこゆる山とくは若清苑

名所極

御侍花

雨中侍花

侍花甘暮

夕侍花

望山侍花

山家侍花

侍隣家花

<sup>新古今</sup> <sup>ハナ</sup> 名所極の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

御侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

雨中侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

侍花甘暮の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

夕侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

望山侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

山家侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

侍隣家花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

園花侍花

独侍花

老侍花

侍花似戀

羈中侍花

老款花

末同花

春寒花慵

山寒花遅

山花未綻

深山花遅

<sup>新古今</sup> 園花侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

独侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

老侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

侍花似戀の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

羈中侍花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

老款花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

末同花の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

春寒花慵の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

山寒花遅の御侍花は雨の日の侍花より山の家侍花より夕侍花より望山侍花より山家侍花より侍隣家花より

山家花遅

春集 雲少と暮やうらりしけし心のたりとて心ひの級ハ遠冬之後  
後集 唐志ありてや下極とて人の世に果ははと暮や 山家

隨風尋花

後集 白ひくるとんてとてうて白ひくるとんてとて

凌霞尋花

後集 凌霞の暮とてか入るておけけ

霞中尋花

日 雲の霞とてとてか入るておけけ 定家  
日 雲の霞とてとてか入るておけけ 定家

雨中尋花

日 雲の霞とてとてか入るておけけ 定家

終日尋花

全集 白ひくるとんてとてうて白ひくるとんてとて

尋花日暮

千載 雲の霞とてとてか入るておけけ

遠尋花

後集 雲の霞とてとてか入るておけけ

逢尋花

千載 雲の霞とてとてか入るておけけ

尋花処不定

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

取々尋花

後集 雲の霞とてとてか入るておけけ

曉天尋花

天の字をわく 曉天花より

朝尋花

雲の霞とてとてか入るておけけ

尋深山花

雲の霞とてとてか入るておけけ

山路尋花

雲の霞とてとてか入るておけけ

遠尋山花

雲の霞とてとてか入るておけけ

尋花深山

雲の霞とてとてか入るておけけ

尋花田山

田山山山山山山山山山山山山山山山山山

行路尋花

雲の霞とてとてか入るておけけ

尋花路遠

雲の霞とてとてか入るておけけ

尋花遠行

独尋山花

逢樵丈同花

花初開

花半開

花僅開

山花半綻

花開似美人

花未遍

新勅 尋花遠行 けりもるやと羨つてつて花のほろふれは 花仲

夜集 独尋山花 独り山花をゆく吉野の昔もよもふ花つとふらん 西行

日 逢樵丈同花 花とる人なまそ 藪こゝろ 縁よ 逢て 出り あり 方  
のしよ 八む こと せし けり こと せし こと せし こと せし

新勅 花初開 花初開 花初開 花初開 花初開 花初開 花初開 花初開

夜集 花半開 花半開 花半開 花半開 花半開 花半開 花半開 花半開

夜集 花僅開 花僅開 花僅開 花僅開 花僅開 花僅開 花僅開 花僅開

夜集 山花半綻 山花半綻 山花半綻 山花半綻 山花半綻 山花半綻 山花半綻 山花半綻

夜集 花開似美人 花開似美人 花開似美人 花開似美人 花開似美人 花開似美人 花開似美人 花開似美人

夜集 花未遍 花未遍 花未遍 花未遍 花未遍 花未遍 花未遍 花未遍

花漸盛

花方盛

逐年花盛

逐日花盛

風静花盛

毎山花盛

庭花盛久

常見花

夜集 花漸盛 花漸盛 花漸盛 花漸盛 花漸盛 花漸盛 花漸盛 花漸盛

夜集 花方盛 花方盛 花方盛 花方盛 花方盛 花方盛 花方盛 花方盛

夜集 逐年花盛 逐年花盛 逐年花盛 逐年花盛 逐年花盛 逐年花盛 逐年花盛 逐年花盛

夜集 逐日花盛 逐日花盛 逐日花盛 逐日花盛 逐日花盛 逐日花盛 逐日花盛 逐日花盛

夜集 風静花盛 風静花盛 風静花盛 風静花盛 風静花盛 風静花盛 風静花盛 風静花盛

夜集 毎山花盛 毎山花盛 毎山花盛 毎山花盛 毎山花盛 毎山花盛 毎山花盛 毎山花盛

夜集 庭花盛久 庭花盛久 庭花盛久 庭花盛久 庭花盛久 庭花盛久 庭花盛久 庭花盛久

夜集 常見花 常見花 常見花 常見花 常見花 常見花 常見花 常見花

初見花

千秋 雲よりあまてくれ木のつふ花も日暮も移りゆく 白川院

秋 初見とらんし  
ほそむさかしののびのきこしるをよかき風の白 伏見屋

静見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

風静見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし  
秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

足盛花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

丹前見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

毎春見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

年々見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

朝見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

毎朝見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

終日見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

夕見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

足花日暮

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

逐日着花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

見花逐日

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

遠近見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

遙見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

遠見山花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

秋山見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

隔水見花

秋 静見とらんし  
静乃字むけりし

偏使思花

後近く使のつらつら思ひのこは打てては社とる程はせ之補

舟中思花

夜集つらつら舟路のこは打てては社とる程はせ之補

於船内思花

日極心寄る近く漕舟乃らうのうせぬおしとを也

獨思花

日いとまててつらつら思ひのこは打てては社とる程はせ之補

老後思花

日つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

思花戀友

日つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

思花亡節

夜集いとまててつらつら思ひのこは打てては社とる程はせ之補

見花忘恥

夜集つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

心静思花

夜集つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

見花忘齡

日つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

旅客思花

後社 旅客旅人とり思はるる旅客まかりて思ひのこ

羈中思花

玉葉つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

思花迷懷

夜集つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

思花

凡雅つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

雨中思花

日つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

毎年思花

夜集つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

夜思花

夜集つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

雨夜思花

夜集つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

遠思山花

日つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

毎年愛花

夜集つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

思花

凡雅つらつらに思はるる社借れとむやうりて思はるる

新木春下

四七



丹前歌花

既朝花

既山花

禁中歌花

独歌花

憐花

花未飽

望花未飽

心未飽花

慰花

對花思昔

五集 笑あれや月一光よかろくればよき事あり月月の善は 後柏原院

歌 いかれやたまさかさるる朝の光なり 於時やうぬ花の浦 後改

令際 山崎ふむむとしてしより付よのこまぬ月それさ 長安

月 九きよりくく白くは花のときさき乃れと知事 中納言 行

千集 空しうて表どう母我やうぬ人もさあぬ花 昨兼

歌 憐ハ愛ハめれむし

歌 朽砂と老木の栴とれ桂てむとあられむきやちん 後改

玉集 けいけいこれとていさこころ

歌 一年しまれかゝる善乃月も花逢らむの比さそ乳さ 為実

千集 今よりいむとぬとぬかたりればあゝぬも造らうれ 信音

千集 八千とて後もあつと栴むと侍をに候始ちん 昨兼

歌 身のさきと又世のさきとあはれむし

歌 ういりて今もあつむの候とてあはれむし 後改

歌 對花いむとてむとあはれむし 後改

靜對花

別花

交花

折花

月亦折花

花未忘

遠花

花滿遠色

遠花誰家

近花

日 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

日 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

歌集 名抄いふとふも善のうり夜別は情くぬいの下外 道冬後

千集 今いりる善のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

玉集 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

歌集 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

歌 花あての後に付むとれぬむし

歌 あつりらよ善やあつらん花付乃さつぬむし 後仲正

歌 こころいふ雲乃よりそら乃とてさきとてさきとて 後改

歌 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

歌 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

歌 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

歌 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

歌 ちみれ者のいの善さそとろくそとらん 今も有世 後直

奇天花

花のこころと天のこころをていつか

花のこころと天のこころをていつか

依花侍月

月を侍る花のこころをていつか

月赤花

月を侍る花のこころをていつか

月下明月

月を侍る花のこころをていつか

月照花

月を侍る花のこころをていつか

花色映月

月を侍る花のこころをていつか

花隔月

月を侍る花のこころをていつか

月入花灘暗

月を侍る花のこころをていつか

寄雪花

月を侍る花のこころをていつか

花似雪

月を侍る花のこころをていつか

花恨

花のこころをていつか

奇風花

花のこころをていつか

花薰風

花のこころをていつか

花隨風

花のこころをていつか

花香隨風

花のこころをていつか

風靜花芳

花のこころをていつか

無風花韻

花のこころをていつか

對花狀風

花のこころをていつか

依花狀風

花のこころをていつか

花恨風

花のこころをていつか

霞中花

花のこころをていつか

花透霞

花のこころをていつか

花恨

四十四

霞薄花

花似雲

雲間花

雨催花

雨中夕花

雨後花

奇秀花

花帶秀

曉花

曙花

朝花

終日對花

新秋 花とともかき小舟乃社ありては花もいさうし 邦有秋王

秋集 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

後林 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

新秋 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

秋集 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

後林 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

新秋 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

秋集 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

後林 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

新秋 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

秋集 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

後林 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

新秋 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

秋集 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

後林 山姫乃花の神やうきうししては花もいさうし 実隆

依花日短

對花日暮

花下日暮

花下忘歸

花下送日

花映日

夕花

夜花

夜花不知名

深夜花

遠望山花

日 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

日 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

後林 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

新秋 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

秋集 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

後林 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

新秋 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

秋集 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

後林 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

新秋 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

秋集 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

後林 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

新秋 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

秋集 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

後林 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

新秋 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

秋集 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

後林 ひとあつとては花もいさうし 依花日短

晩望山花

霞間山花

霞間山花

山中花夕

山路花

深山花

遠山花

暮山花

夜山花

山路皆花

花満山路

秋集  
こほのあ分山の言解よりことりぬや心の夕へ 後備

秋後撰  
あつれつる花のしの花をこしてあつれつるあつれつる 後備

山花  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

山中花夕  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

山路花  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

深山花  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

遠山花  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

暮山花  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

夜山花  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

山路皆花  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

花満山路  
あつれつるあつれつるあつれつるあつれつるあつれつる 後備

花満山

花満山河

山花苗人

山花苗客

花添山氣色

嶺上望山花

遠嶺山花

連峯山花

藤山花

古溪山花

洞底山花

秋集  
花満山 花満山河 山花苗人 定成

秋後撰  
花満山 花満山河 山花苗人 光明寺

山花苗客 大甲片長

花添山氣色 空家

嶺上望山花 家隆

遠嶺山花 遺を後

連峯山花 後拍余後

藤山花 後

古溪山花 三之度

洞底山花 後

花掩洞水

谷水よしのちりおひくさる

あいの定ち乃波とてめれふや乃ちまをわが 友永隆方

孫林七郎 人乃ゆえこれ景名のしてあまあまのふ 融之

夜集 妻とて宮本よりとね人のなむひくさる 道を度

千代 山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

夜集 山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

夜集 山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

山吹指さるるかたてそのれいさり乃ちまを 耕之

橋下花

下の字をぬき 橋下花と 定家

水上花

白月七夜 水上花の心 資仲

花陰写水

花陰写水の心 資仲

花散浮水

花散浮水の心 資仲

池上花

池上花の心 資仲

花写池水

花写池水の心 資仲

江辺花

江辺花の心 資仲

滝上花

滝上花の心 資仲

河上花

河上花の心 資仲

河上夕花

河上夕花の心 資仲

海辺花

海辺花の心 資仲

遠花  
湖と花  
湖邊夕花  
浦花  
濱花  
磯花  
泊花  
汀花  
遠村花  
市花  
都花  
禁中花

遠花 遠くまでゆくは 遠き道のついで 花を先ひくは 遠く  
湖と花 湖のほとり 花の咲くは 湖のほとり 花の咲くは 湖のほとり  
湖邊夕花 湖邊の夕花 湖邊の夕花 湖邊の夕花 湖邊の夕花  
浦花 浦のほとり 花の咲くは 浦のほとり 花の咲くは 浦のほとり  
濱花 濱のほとり 花の咲くは 濱のほとり 花の咲くは 濱のほとり  
磯花 磯のほとり 花の咲くは 磯のほとり 花の咲くは 磯のほとり  
泊花 泊のほとり 花の咲くは 泊のほとり 花の咲くは 泊のほとり  
汀花 汀のほとり 花の咲くは 汀のほとり 花の咲くは 汀のほとり  
遠村花 遠村のほとり 花の咲くは 遠村のほとり 花の咲くは 遠村のほとり  
市花 市のほとり 花の咲くは 市のほとり 花の咲くは 市のほとり  
都花 都のほとり 花の咲くは 都のほとり 花の咲くは 都のほとり  
禁中花 禁中のほとり 花の咲くは 禁中のほとり 花の咲くは 禁中のほとり

禁中花並力  
禁庭花盛久  
社頭花  
古寺花  
山寺花  
故郷花  
水郷花  
塩屋花  
草庵花  
山家花  
山居花  
田家花  
閑中花

禁中花並力 禁中のほとり 花の咲くは 禁中のほとり 花の咲くは 禁中のほとり  
禁庭花盛久 禁庭の花盛久 禁庭の花盛久 禁庭の花盛久 禁庭の花盛久  
社頭花 社頭のほとり 花の咲くは 社頭のほとり 花の咲くは 社頭のほとり  
古寺花 古寺のほとり 花の咲くは 古寺のほとり 花の咲くは 古寺のほとり  
山寺花 山寺のほとり 花の咲くは 山寺のほとり 花の咲くは 山寺のほとり  
故郷花 故郷のほとり 花の咲くは 故郷のほとり 花の咲くは 故郷のほとり  
水郷花 水郷のほとり 花の咲くは 水郷のほとり 花の咲くは 水郷のほとり  
塩屋花 塩屋のほとり 花の咲くは 塩屋のほとり 花の咲くは 塩屋のほとり  
草庵花 草庵のほとり 花の咲くは 草庵のほとり 花の咲くは 草庵のほとり  
山家花 山家のほとり 花の咲くは 山家のほとり 花の咲くは 山家のほとり  
山居花 山居のほとり 花の咲くは 山居のほとり 花の咲くは 山居のほとり  
田家花 田家のほとり 花の咲くは 田家のほとり 花の咲くは 田家のほとり  
閑中花 閑中のほとり 花の咲くは 閑中のほとり 花の咲くは 閑中のほとり

隣家花

園中花

庭花露重

庭花喜久

庭花久芳

庭花似彼

松間花

花交松

松陽花

松間花

竹間花

花処

依花侍人

日集 隣の庭花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 どうやら花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 庭の花もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

寄花思故人

依花侍客

依花客来

花畝行客

花友

見花戀友

花下遇友

花下惜友

花巡幸友

花多春友

花慰老

日集 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

日 花の影もよもや中庭にうつりてさうさうな花の影もあらず

花下忘老  
花耻老

忘老折花

排頭花

花小向

花麻

花鏡

花衣

寄玉花

花鏡

寄琴花

寄枕花

集 花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花  
花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花  
花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花

花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花

花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花

花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花

花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花

花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花

花下忘老 花耻老 忘老折花 排頭花 花小向 花麻 花鏡 花衣 寄玉花 花鏡 寄琴花 寄枕花

花冠

花錦

花白

花色

花便

花使

花主

花面歌

花形歌

花曉鐘

寄花燈

寄花雜

寄花枝

花冠 花錦 花白 花色 花便 花使 花主 花面歌 花形歌 花曉鐘 寄花燈 寄花雜 寄花枝

花冠 花錦 花白 花色 花便 花使 花主 花面歌 花形歌 花曉鐘 寄花燈 寄花雜 寄花枝

花冠 花錦 花白 花色 花便 花使 花主 花面歌 花形歌 花曉鐘 寄花燈 寄花雜 寄花枝

花冠 花錦 花白 花色 花便 花使 花主 花面歌 花形歌 花曉鐘 寄花燈 寄花雜 寄花枝

花冠 花錦 花白 花色 花便 花使 花主 花面歌 花形歌 花曉鐘 寄花燈 寄花雜 寄花枝

花冠 花錦 花白 花色 花便 花使 花主 花面歌 花形歌 花曉鐘 寄花燈 寄花雜 寄花枝

花冠 花錦 花白 花色 花便 花使 花主 花面歌 花形歌 花曉鐘 寄花燈 寄花雜 寄花枝



花柳稀

花柳少

杜間花稀

深山花稀

新月惜花

惜花怨年

依花惜去

暮春惜花

故鄉惜花

老惜花

替則惜花

花欲後

花柳稀 花柳稀

花柳少 花柳少

杜間花稀 杜間花稀

深山花稀 深山花稀

新月惜花 新月惜花

惜花怨年 惜花怨年

依花惜去 依花惜去

暮春惜花 暮春惜花

故鄉惜花 故鄉惜花

老惜花 老惜花

替則惜花 替則惜花

花欲後 花欲後

花半散

花易散

未落花

落花未遍

落花難駐

落花多

花日々落

月前落花

無風散花

風拂落花

花半散 花半散

花易散 花易散

未落花 未落花

落花未遍 落花未遍

落花難駐 落花難駐

落花多 落花多

花日々落 花日々落

月前落花 月前落花

無風散花 無風散花

風拂落花 風拂落花

花柳稀

落花隨風

我心ゆくよせよとてあはれいひて風のそよ風は 落花隨風  
落花隨風 道長院

霞中落花

霞中落花 我れゆくあはれや人よあはれんあはれんは 落花隨風 吹 吹 吹  
霞中落花 吹 吹 吹

花飛如雪

花飛如雪 白雪よふくすうひひのあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
花飛如雪 吹 吹 吹

雨中落花

雨中落花 山娘のあはれの社やあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
雨中落花 吹 吹 吹

雨後落花

雨後落花 雨あつちのあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
雨後落花 吹 吹 吹

曉庭落花

曉庭落花 曉庭のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
曉庭落花 吹 吹 吹

朝落花

朝落花 朝落花のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
朝落花 吹 吹 吹

夕落花

夕落花 夕落花のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
夕落花 吹 吹 吹

夜思落花

夜思落花 夜思落花のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
夜思落花 吹 吹 吹

山花未落

山花未落 山花未落のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
山花未落 吹 吹 吹

溪花落花

溪花落花 溪花落花のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
溪花落花 吹 吹 吹

山路落花

山路落花 山路落花のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
山路落花 吹 吹 吹

落花滿山路

落花滿山路 落花滿山路のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
落花滿山路 吹 吹 吹

依水知山花

依水知山花 依水知山花のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
依水知山花 吹 吹 吹

花浮澗水

花浮澗水 花浮澗水のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
花浮澗水 吹 吹 吹

落花滿谷

落花滿谷 落花滿谷のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
落花滿谷 吹 吹 吹

落花滿山

落花滿山 落花滿山のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
落花滿山 吹 吹 吹

落花滿橋

落花滿橋 落花滿橋のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
落花滿橋 吹 吹 吹

閑庭滿花

閑庭滿花 閑庭滿花のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
閑庭滿花 吹 吹 吹

落花盈庭

落花盈庭 落花盈庭のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
落花盈庭 吹 吹 吹

行路落花

行路落花 行路落花のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
行路落花 吹 吹 吹

落花埋路

落花埋路 落花埋路のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
落花埋路 吹 吹 吹

惜花不掃庭

惜花不掃庭 惜花不掃庭のあはれは 落花隨風 吹 吹 吹  
惜花不掃庭 吹 吹 吹

落花隨風

四十一

落花後砌

歳乃あつりてんは散花するなり

柳結落花

あつりて柳の多し結をれありてなり

花落枝緑

花あつて枝乃青葉なかりてなり

花埋草

花乃ほとふまへて花乃を草にまゐりてなり

落花散衣

あつりて花乃散衣にまゐりてなり

落花入簾

あつりて花乃入簾にまゐりてなり

花落客掃

あつりて花乃客掃にまゐりてなり

夢中落花

夢中落花にまゐりてなり

落花処々

あつりて花乃処々にまゐりてなり

花尽春殘

花尽春殘にまゐりてなり

憐落花  
花散春雨

あつりて花乃散春雨にまゐりてなり

名所落花

あつりて名所に落花にまゐりてなり

暮春落花

あつりて暮春に落花にまゐりてなり

落花不語

あつりて落花不語にまゐりてなり

旅行花

あつりて旅行に花にまゐりてなり

旅店花

あつりて旅店に花にまゐりてなり

花下旅水

あつりて花下に旅水にまゐりてなり

寄花離別日をさるうろ寝るるの乃喜のむいよの旅の別心正徹

寄夢花源集つらたそつやうたうれむ寝ぬ夢よ大友なり世と改居

寄花眺望源集金ふらえんはむともじかろく日小誠北条家信自实际

寄花述懐源集このうらたるともあわうあわい社むらあ又慰もせり行宗

寄懐花源集懐述懐のかく寄花懐と云もあり日心

寄花幽思源集余乃すふこととてらんんもゆふのむよそむいん石賢

思思とハかあふいふまよふこととて或はに方りまを

思思もあふ大方に述懐の事あわれとれん七

歌別れおんむいひあふらん長々世の暮らうと云公谷

家集寄花非祇歌男は花乃自由つらうら歌をいひと云君も云と秋阿

歌寄花釋教日そのつらうら花の言は極む極まぢぢも言はれぬ公谷

歌見花歎無常日又さらん夢もれずぬ老々今今年極るむと云雅歌

歌寄花祝歌うらたそつやうたうれむ寝ぬ夢よ大友なり世と改居

歌花色春深歌花集むのともやうくまふくぬらう三月志つたのか

花有歡色歌花よ六自をう歡色のまことそかてうらうの歌く

花有喜色歌枝とてはさき凡したうねおあれくむも娘もむ後柏屋

花辰色歌芳々うらふあつる娘も娘と花かふふもいつてより絶兼

每春花芳千歌かへて世乃喜よあれと九空のむも十年快そ久き後柏屋

花流春色歌昔とて白いと流るる梅むは老とて筆り筆くれ源仲正

花色春久歌うらたそつやうたうれむ寝ぬ夢よ大友なり世と改居

花勝前年歌去々代乃今年快美と勢走てむも老盤奴之陰に公谷

追年花环歌去々よりりも今年ハなりの語りころも

花契多年以上咲ぬ花もめつるも也喜とてむも春も花乃さうハ三五

花契多年同上縁から松とのこも我々心も年と變るとり作れ御

花契巡年金巡年ハさうたう年と變るとり作れ御

花契千年後撰撰万ふとじてむいは梅むらう人喜乃語りあれ源隆俊

後撰撰いとねらもころもさうと梅花若う今年快美の始ハ正房

花光契万年

後撰 幾方世としていふ久々の光とこれ九つものなる 道達後  
花の光情なれと云ふ時と知とれ八目情とてさうなり

春情在苑

花とていふれは花もいふれやまじとて信とては花の信  
去と去とさかか命命花の上とありとてひらき

花時不用

桜む白さうりせ分ははらふさうりこと乃 婦りは 花季  
咲ぬれいふあうりれてもいふさうりなり

花時心不静

去案なりとていふさうりれてもいふさうりの月もいふ 和泉寺  
花のいふさうりあうりれてもいふさうりだ定心と静と

花駭定心

心也 言志といふさうりあうりてもいふさうり入さうり志といふ

花下言志

今あれ多乃まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに

依苑遠行

いふあうりれてもいふさうりあうりれてもいふさうりあうりれてもいふさうり

依苑忘家

うりうりの心すまなまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに

花有遲速

花集 早く咲ゆる花はめりやくと咲り有

花無擇処

いふさうりあうりれてもいふさうりあうりれてもいふさうりあうりれてもいふさうり

花有閑落

閑落は花はらりて咲もめりあもあうり

花非一樹

花集 花一つに咲かぬもあうり

花思西

先咲はんととあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうり

花如舊

花集 花のさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて

花登風雨

花集 花のさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて

花時

花集 花のさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて花はなにかさうりて

毎春花有句

夜集 又人と契候りやかうくは花は比のトとひかひは益法  
花は毎春有句と云ふ事候なり

遠近人家花便入

夜集 詠詠の詩乃句歌入をよむの候なりやと云ふ事候なり  
後歌詠のつらけれり入てまらば

不論貴賤与歌味

依然不狀風

夜集 依然不狀風といふ事候なりやと云ふ事候なり  
依然不狀風といふ事候なりやと云ふ事候なり

故室花自発

夜集 故室花自発といふ事候なりやと云ふ事候なり  
故室花自発といふ事候なりやと云ふ事候なり

不覺花來

夜集 不覺花來といふ事候なりやと云ふ事候なり  
不覺花來といふ事候なりやと云ふ事候なり

花時鞍馬

夜集 花時鞍馬といふ事候なりやと云ふ事候なり  
花時鞍馬といふ事候なりやと云ふ事候なり

豈独花堪惜

夜集 豈独花堪惜といふ事候なりやと云ふ事候なり  
豈独花堪惜といふ事候なりやと云ふ事候なり

萎花蝶飛去

夜集 萎花蝶飛去といふ事候なりやと云ふ事候なり  
萎花蝶飛去といふ事候なりやと云ふ事候なり

故室花正落

夜集 故室花正落といふ事候なりやと云ふ事候なり  
故室花正落といふ事候なりやと云ふ事候なり

○野遊

夜集 野遊の候りやと云ふ事候なりやと云ふ事候なり  
野遊の候りやと云ふ事候なりやと云ふ事候なり

あゝの

夜集 あゝのといふ事候なりやと云ふ事候なり  
あゝのといふ事候なりやと云ふ事候なり

若木の花は

夜集 若木の花はといふ事候なりやと云ふ事候なり  
若木の花はといふ事候なりやと云ふ事候なり

のこゝろは

夜集 のこゝろはといふ事候なりやと云ふ事候なり  
のこゝろはといふ事候なりやと云ふ事候なり

世乃乃法人

夜集 世乃乃法人といふ事候なりやと云ふ事候なり  
世乃乃法人といふ事候なりやと云ふ事候なり

花の陰は

夜集 花の陰はといふ事候なりやと云ふ事候なり  
花の陰はといふ事候なりやと云ふ事候なり

佳木春下

五十一

ととれつむ

方いつしうこひのふかゝる美のいと曇つむと踏むじつる 隆俊

大宮人

日これぞこの美の下とゆふ大宮人の打ひれり 信定

のふらう次

日秋人宿成旅のよそよそとてこのふらうものこぼる 後重松

くさるきさく

日とそゆ跡の旅よとてさきかへのたむけ 隆俊

野遊至暮

十のころぬきまふのあそびてはらさるのふたへ 隆俊

野遊送年

凡集美とてはあつては去年と送年と 隆俊

春秋野遊

丈木月一の夜も芳もふ別れ初めの松すゝ出の声 定家

○糸遊

くさるぬき

凡集くさるぬきくさるぬきくさるぬきくさるぬきくさるぬき 隆俊

あつらふささり

信太社あつらふささりあつらふささりあつらふささりあつらふささり 隆俊

尖子いろ

糸糸の尖はれとて尖子いろといふ 隆俊

美のこころ

凡集美のこころ美のこころ美のこころ美のこころ美のこころ 隆俊

美の衣

凡集美の衣美の衣美の衣美の衣美の衣 隆俊

けいこおぬ

日けいこおぬけいこおぬけいこおぬけいこおぬけいこおぬ 隆俊

掉姫の

千掉姫の掉姫の掉姫の掉姫の掉姫の 隆俊

えいし乱る

日えいし乱るえいし乱るえいし乱るえいし乱るえいし乱る 隆俊

美の光よほふ

六百五美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ 隆俊

美の光よほふ

日美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ 隆俊

美の光よほふ

日美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ美の光よほふ 隆俊

青柳の枝も

表青柳の枝も青柳の枝も青柳の枝も青柳の枝も青柳の枝も 隆俊

雑

五十二

あそふ系 文四十三 大元のあそふ系りて梓姫や成の夜とるよ 後製  
日氣も永く 歌 流がらるる井冬よりうり月日氣も永くあそふ系 後

晴天遊録 歌 晴天遊録

天外遊録 歌 天外遊録

野外遊録 歌 野外遊録

○遅日

善の日ながむ 歌 行末は待てあいられぬとていひはく 善日有長 善日  
善日ながむ 歌 善日ながむ 善日有長 善日  
くしうぬる 歌 善日ながむ 善日有長 善日  
いとあり 歌 善日ながむ 善日有長 善日

白ふ日の氣 歌 白ふ日の氣 善日有長 善日

かきこころ 歌 かきこころ 善日有長 善日

善日 歌 善日 善日有長 善日

冬乃い 歌 冬乃い 善日有長 善日

松ま 歌 松ま 善日有長 善日

むを 歌 むを 善日有長 善日

ひや 歌 ひや 善日有長 善日

常乃百 歌 常乃百 善日有長 善日

つら 歌 つら 善日有長 善日

千里 歌 千里 善日有長 善日

善日有長

五十三



遅日

春日遅日遅

獨坐天難暮

新古今 春のえもくや人のこほりてさるる春の暮るる

春の暮るる見ゆらみくらしくさるる

玉葉 ひとりあけゆく春の暮るる日さるる

○三月三日 并 桃花 曲水

危人の立

あてあらず

とく月

とくこつじ

危人の立あてあらず春の暮るる

文の文跡生れ三日の月の影さるる

とくこつじとく月とく月とく月

危人の

危人の立あてあらず春の暮るる

危人の立あてあらず春の暮るる

危人の舟と

この巳れ日

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

ふるのき

危人の舟とこの巳れ日

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

ふるのきふるのき

あふひのつら

つらい番へ鴉鳴雀のこゝ

花の灯

百のひらひらと花のつらさうらひの心はれはよらう 急法

きれ流

これ水は降て詩うらうて去てなるとをさう

さじのり

天川さうの桃や咲けりんさう花のよも酔ゆる 云鈴

りこく比

一村のあささこは日るあふりさはのこは桃は 源徳

善おの孫

桃のむまくれなふの流こそ柳橋ささむれね 道徳俊

こらよのむ

あふひのつらさうのつらさうらひあふれ 政孝

あふひ

さう月おふあふりつらさうむらさき 吉房

桃屋のむれ者

今もその流さうの桃屋のむらさき 吉房

ひたひ

人かよよの朝のむらさきさうくれ 信実

八重桃

いくつり子代もさうさうのむらさき 信実

けり

あふひのつらさうさうのむらさき 光俊

あふひ

さう月おふあふりつらさうむらさき 信実

うら桃

さう月おふあふりつらさうむらさき 信実

こらよのむ

あふひのつらさうさうのむらさき 信実

そのあつ桃

あふひのつらさうさうのむらさき 信実

物いふぬ

あふひのつらさうさうのむらさき 信実

下照の桃

あふひのつらさうさうのむらさき 信実

三月二日

曲水宴

桃花曝錦

あふひのつらさうさうのむらさき 信実

新法

定受

夕桃

信集

夕ついで下思ひの桃のむすう春空をれとゆ

桃李不言

千尋

桃李不言のいふは入らん其のいふは

桃李浮水と

赤集

浮水と桃のいふは人のむらうりてり

故郷桃李

日

故郷の桃李のいふは故郷の桃李

○燕

つごめくわ

万

つごめくわはつごめくわと二合は

言のつごめ

建久元年

言のつごめはつごめくわと二合は

二月の月

春

二月の月はつごめくわと二合は

一くわ

千五

一くわはつごめくわと二合は

古栗る

集

古栗るはつごめくわと二合は

古栗る

集

古栗るはつごめくわと二合は

翅なうらる

夫木

翅なうらるはつごめくわと二合は

くさ中

十

くさ中はつごめくわと二合は

むくれ

夫木

むくらはつごめくわと二合は

屋外燕

千尋

屋外燕はつごめくわと二合は

○草菜

花ごころ

夫木

花ごころはつごめくわと二合は

月ごころ

赤集

月ごころはつごめくわと二合は

波芽の系

信集

波芽の系はつごめくわと二合は

独ごころ

信集

独ごころはつごめくわと二合は

つごめくわ

信集

つごめくわはつごめくわと二合は

なごころ

赤集

なごころはつごめくわと二合は

志ごころ

赤集

志ごころはつごめくわと二合は

推本

五十六

下くさよ交 十之七 つらやげいもこの杜の下あふ交う草のちそげあ 亦歌

たぐりく下 十之六 ときくさのあさく下の内ち草さもりよ草のちそげ 曰

たぐりの内 千之六 いっ人の色の内つはとくれ昔あてやあかりん 後成

たよりのいと 千之六 けあやとせまうけりて草を秋のちとせはい 後成

たよりのいと 千之五 いちりうとら花火のあま我独のりやほほ草と花柄 仲実

たよりのいと 五社百 松うちよぼさ草のあま 後成

たよりのいと 家集 こく下乃くほゆあてほ草さくさ 後成

たよりのいと 家集 あくこのあ 後成

たよりのいと 七社百 あつねのあ 後成

たよりのいと 千之五 あつねのあ 後成

たよりのいと 千之五 あつねのあ 後成

たよりのいと 千之五 あつねのあ 後成

たよりのいと 千之五 あつねのあ 後成

たよりのいと 千之五 あつねのあ 後成

草のゆり 十之六 はふいゆり乃をこしハ草のゆりとも云 亦歌

草のゆり 十之五 たつねのあ 後成

草のゆり 十之四 あつねのあ 後成

草のゆり 十之三 あつねのあ 後成

草のゆり 十之二 あつねのあ 後成

草のゆり 十之一 あつねのあ 後成

草のゆり 十之〇 あつねのあ 後成

草のゆり 九之九 あつねのあ 後成

草のゆり 九之八 あつねのあ 後成

草のゆり 九之七 あつねのあ 後成

草のゆり 九之六 あつねのあ 後成

草のゆり 九之五 あつねのあ 後成

草のゆり 九之四 あつねのあ 後成

草のゆり 九之三 あつねのあ 後成

草のゆり 九之二 あつねのあ 後成

草のゆり 九之一 あつねのあ 後成

草のゆり 八之〇 あつねのあ 後成

草のゆり 七之九 あつねのあ 後成

草のゆり 七之八 あつねのあ 後成

草のゆり 七之七 あつねのあ 後成

草のゆり 七之六 あつねのあ 後成

草のゆり 七之五 あつねのあ 後成

草のゆり 七之四 あつねのあ 後成

草のゆり 七之三 あつねのあ 後成

草のゆり 七之二 あつねのあ 後成

草のゆり 七之一 あつねのあ 後成

草のゆり 六之〇 あつねのあ 後成

草のゆり 五之九 あつねのあ 後成

草のゆり 五之八 あつねのあ 後成

草のゆり 五之七 あつねのあ 後成

草のゆり 五之六 あつねのあ 後成

草のゆり 五之五 あつねのあ 後成

草のゆり 五之四 あつねのあ 後成

草のゆり 五之三 あつねのあ 後成

草のゆり 五之二 あつねのあ 後成

草のゆり 五之一 あつねのあ 後成

草のゆり 四之〇 あつねのあ 後成

草のゆり 三之九 あつねのあ 後成

草のゆり 三之八 あつねのあ 後成

草のゆり 三之七 あつねのあ 後成

草のゆり 三之六 あつねのあ 後成

草のゆり 三之五 あつねのあ 後成

草のゆり 三之四 あつねのあ 後成

草のゆり 三之三 あつねのあ 後成

草のゆり 三之二 あつねのあ 後成

草のゆり 三之一 あつねのあ 後成

草のゆり 二之〇 あつねのあ 後成

草のゆり 一之九 あつねのあ 後成

草のゆり 一之八 あつねのあ 後成

草のゆり 一之七 あつねのあ 後成

草のゆり 一之六 あつねのあ 後成

草のゆり 一之五 あつねのあ 後成

草のゆり 一之四 あつねのあ 後成

草のゆり 一之三 あつねのあ 後成

草のゆり 一之二 あつねのあ 後成

草のゆり 一之一 あつねのあ 後成

草のゆり 〇之〇 あつねのあ 後成

朝莖菜 夕莖菜

朝莖菜 歌 法人のつむ 参らあま 生るもれ かりのい

夕莖菜 歌 朝日と兼のく乃川に草はふつちんあま 亦歌

雨中のととれ 初集 被<sup>レ</sup>くして悪くさんてれくしに取降してとれ候のを後れ  
杜間萱草 同 かるくく白く萱のよりて落とりなす杜の下草 意法

野萱 千 くふくふと或落きて法人のくまをまかしてれ摘り 耕

新野萱 成集 新白くしと禁のくつち萱はてより人寄るくたれ法後

故郷萱 千 雲とくし萱つみふくく人の使ふくくの取る為 昨兼

用庭萱 日 りれ坊の芭ものつち萱昔の表れくこ小 日

庭萱 日 咲くく流りくくまこいひくり萱のまそかひ 日

古砌萱草 後集 杖かろく芭は咲くつちとれとのれはかまの 雅言

槁萱 百 古砌おれくをのふ おけ

萱深社 百 掃てまれ新々あ乃取はよ お 道冬

一 花わすけの萱の新あなれ お 季表

○蛙

ほりにの蛙 百 蛙 お 忠房

小田乃り 初 小 忠良

右のり 初 蛙 忠房

りり 初 蛙 忠房

石井 初 蛙 忠房

一 初 蛙 忠房

夕 初 蛙 忠房

門田 初 蛙 忠房

この 初 蛙 忠房

この 初 蛙 忠房

春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光  
六五五 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

鴨のうらまは 千五百五 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

夕方の下は 万葉 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

あせ侍の声 百五 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

平ぬくろ 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

花のうらま 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

川凡井 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

春よりよ 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

山吹 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

春のうらま 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

夕方の下は 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

あせ侍の声 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

平ぬくろ 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

花のうらま 永久 春集 付もあれやこれから山と都府はひもろのもに蛙鳴く 俊光

歌 逐夜聞報 逐夜聞報 逐夜聞報

夕蛙  
池蛙  
田蛙

庭堀方合  
このついでに蛙の音はつとあつての後にいくよわぬ  
文迄  
千三  
垣あちりともいへばつと鳴らるる夕蛙よ夕蛙よ  
夕  
日  
いひおれ池のふも有むと稱するつとつとなく群れ  
日  
おれと稱する甲は夕蛙おれとふも群れとつとは日

○苗代

并春田

種まき後  
いそぐるをろ

丈木  
このついでに種まき後を衣するつとつとつとつとつとつと  
行  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

こころれ種  
こころれ種

日  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

なるなる垣  
なるなる垣

丈木  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

なるなる垣  
なるなる垣

丈木  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

いぐさつとつと

いぐさつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

苗代をまいた

千三  
苗代をまいたつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

入はせし

百三  
入はせしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

うけひの水

日  
うけひの水つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

あちのゆり

日  
あちのゆりつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

あちの古池

日  
あちの古池つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

あちの古池

日  
あちの古池つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

あちの古池

日  
あちの古池つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

あちの古池

日  
あちの古池つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと





りらつとじ 夜集 いちからいひかゝりていふにやまはけらふとて後れ

わらえ 日 ときたふらふといひし村への古枝はまゝむのちりれと道なほ

つじどれ 万世方 りゆらふもちとていふにけれつとむむし女略 九

つじのけ 建長八百三十八年 たり川をたむ田橋のふかれ弱つしのたこいぢとむ 信実

つじ系 新六 日とそつらふらるるのつじ系下照るや八むのさうむ 知成

白つじ 日 辰らつらふらるるのつじ白つじつれとむとてふも 光後

ころ枝 永久二年古 彼ららうてとてやせるもつじも枝よむの字よと 辰付

宗ね又福さす 新六 川はの宗ね又福さすもつじとむいれとてくれあよ 若家

お乃や一 夜集 おのや一もつじとむもつじとむいれとてくれあよ 若家

松乃下つじ 新六 夕日とそつらふらるるの松のつじとてむむとむむむむ 若家

くやくお 夜集 名もあつらふらるるやうおあつらふらるるひのつじとて 辰付

お乃あつらふら 永久二年古 お乃あつらふらつて用やとてつらつてのまといひとて 仲実

ゆりーと

夜集 ゆりーとをいふとさくれかゝるとさく お義

とこぐ 百 中よあつらふらとてむとてあつらふらとてのまといひとて 道なほ

とくけ 夜集 お乃とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

ひよりい 千 つまよまはりつじとてむとてむとてむとてむとてむとてむとて 辰付

おひのま 夫木 かり小とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

おれ八千入 夜集 かりつじとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

白さうり 百 かりつじとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

川が 夜集 かりつじとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

おひを 夜集 かりつじとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

おぞめ 夜集 かりつじとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

かり 千 かりつじとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

おひ 夜集 かりつじとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

かり 千 かりつじとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて 辰付

山人の  
休むる糸

文相十三九  
山人の休むる糸をまつしとのうらうらひとてくひとては製

ふさふさ

あじうらひの来り人やうきとん恩のつし今感し才智こ

・妻及子志を

つしの糸中つる三か夫路。山下てくひ

・ののつじ

つま本よこせり。松の下恩。木の下陰。志神のつじ

・とくのと

つーつー

雨後躑躅

つら後よつらつし乃おとちりて深き夕ぐれの夜耕の

晩思躑躅

入目こもるお乃さくして山下てくひとてくひとて

夜躑躅

白妙よつらとさししとちの浦や夜うつ波の巻れつ

野徑躑躅

日 ひとのつじとまこちて我こちりや省くらん 行宗は

躑躅夾路

夫路とハ路とまおちりてあからひらる

樵路躑躅

いかにさやつじ乃お井つらむら後よつらやれ 行重

木ころの

木ころの

水边躑躅

凡船 山人の休むる糸をまつしとあめりてやちおとつら 慈法

松下躑躅

白門七た 白門七た 白門七た 白門七た 白門七た

巖上躑躅

志根よけつらつしとておけを

躑躅田人

志根よけつらつしとておけを

○杜若

いそつらつら

新六 山人の休むる糸をまつしとあめりてやちおとつら 信実

石ころの

石ころの 石ころの 石ころの 石ころの 石ころの

まよとつらつら

まよとつらつら まよとつらつら まよとつらつら まよとつらつら

けいこつらつら

けいこつらつら けいこつらつら けいこつらつら けいこつらつら

つらつら

つらつら 杜若 杜若 杜若 杜若 杜若

妻のついで 妻 交すも妻と花やうらつる妻のほと又やねん 耕る

白鷺 建久文百 白鷺の首の流の杜より日しんまひさるるれ 為家

白ふ 七世昔 白ふの首の流の杜より日しんまひさるるれ 為家

白ふ 五世昔 白ふの首の流の杜より日しんまひさるるれ 為家

社 五世昔 社のついで 社 社のついで 社 社のついで 社

葛蒲 五世昔 葛蒲の文 葛 葛蒲の文 葛 葛蒲の文 葛

夜 五世昔 夜のついで 夜 夜のついで 夜 夜のついで 夜

村人の夜 五世昔 村人の夜 村 村人の夜 村 村人の夜 村

死 五世昔 死のついで 死 死のついで 死 死のついで 死

橋 五世昔 橋のついで 橋 橋のついで 橋 橋のついで 橋

池 五世昔 池のついで 池 池のついで 池 池のついで 池

杜 五世昔 杜のついで 杜 杜のついで 杜 杜のついで 杜

杜 五世昔 杜のついで 杜 杜のついで 杜 杜のついで 杜

○山吹

妹 五世昔 妹のついで 妹 妹のついで 妹 妹のついで 妹

八 五世昔 八のついで 八 八のついで 八 八のついで 八

八 五世昔 八のついで 八 八のついで 八 八のついで 八

花の八重咲 今あそび今あそびの吹のむのふを<sup>後九条</sup>延喜の巻と 行歌

山吹のやあ <sup>後九条</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

つぎ山吹 <sup>和泉守</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

志のえの花 <sup>月夜</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

しやとい花 <sup>月夜</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹のむし <sup>貞應三年下</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

吹ののの <sup>貞應三年下</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

やあそ花のそ <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹のの <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

八十八氏人のま 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の <sup>後集</sup> 山吹のやあし乃花そ吹よらる秋そくそ<sup>月夜</sup>花<sup>和泉守</sup>後集

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

山吹の

・山崎の下に水・枝ふるど・山崎のむの事よふく・くらあふと・いとぬを

山崎露 千尋 己上及流芳 宿雅

秋冬露繁 秋集 くらくいあふふ花のうきふふと山崎の事元初 道を度

夕秋冬 秋集 夕月松谷流くくむすくいさふふさうふ山崎の 吹由院

折秋冬 秋集 あふとと井の乃里人借ひともおそくふん山崎の 秋隆

秋冬散 秋集 山崎のうらふあふふ花ひとや花の枯らぬさよはるん 三光院

溪秋冬 文相七 あふふととふ雪とおひや谷の山崎又白ふん 秋記

杜秋冬 千尋 あふふとと社のおうと山崎の事よふく邪あひの杜 山崎

路秋冬 秋集 あふふととあふふんら後とをあふの乃山崎の花 降系

秋冬夾路 秋集 あふふととあふふととあふふとととととと

秋冬藏橋 秋集 あふふととあふふ人の家あふふととこの家乃らふとと 意法

水边秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

水邊秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

池秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

秋冬鏡池 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

瀧下秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

川秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

島秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

岸秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

秋冬傍岸 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

故心秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

田家秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

近初秋冬 秋集 あふふととあふふととあふふととあふふととあふふとと 秋季

難

六十一

離秋冬

淡千 極むあう一故ふ秋のいろる色よのころきれ 淡千

隣家秋冬

秋集 己の心ごとくや中庭のあはれよとく 秋集

暮春秋冬

日 志らぬ心もあはれ 秋集

○藤

友乃花ぞう

秋集 流るる梢乃花のむらう 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

友乃花ぞう

秋集 志川之の心は 秋集

かへつと

山形 書風よきと云ぬ浪りうらむる友は岸の松の梢に松木納之

友の初花

地百 書風よきと云ぬ浪りうらむる友の初花は松の梢に松木納之

下葉乃花

流集 下葉乃花の初花は松の梢に松木納之

友のしと

日 友のしと云ぬ浪りうらむる友のしとは松の梢に松木納之

うごの友

建長八百三十八 うごの友の初花は松の梢に松木納之

くろくの友

文明三十六 くろくの友の初花は松の梢に松木納之

かぐら枝

七 かぐら枝の初花は松の梢に松木納之

くまの友

七 くまの友の初花は松の梢に松木納之

くまの友

凡 くまの友の初花は松の梢に松木納之

木さくくれ

丈木 木さくくれの初花は松の梢に松木納之

二季とくくれ

丈木 二季とくくれの初花は松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

友流の

友流 友流の流なる所の松は流の流なる所の松の梢に松木納之

松のうづまば 丈木 春の事候よろろふ友代の松よ訪て花を女に 定意  
 坊あひく凡のうづまばのうづまばに松の妻をうらふ友 伴光  
 更 百 この浦の志候よろろふ友派をうらふ友派を 宗徳院  
 千 千 妻をよまわれつても友をうらふ友を 宗徳院  
 赤 赤 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院  
 う う 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

藤花隨風

●う う 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

藤花似雲

新 新 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

遙る藤花

月 月 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

藤花始綻

月 月 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

藤花年久

月 月 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

新藤

い い 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

夕藤

千 千 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

吹身藤花

金 金 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

藤花久白

友 友 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

松上藤

友 友 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

友松樹花

友 友 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

藤花懸松

友 友 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

藤花鏡松

友 友 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

藤埋松

友 友 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院

山藤

友 友 友をうらふ友の目候も友派をうらふ友派 宗徳院



橋上藤

今縁の青きまよふても落ぬて死るの橋よりなる友 大支曲は

水邊藤

うらふつと水乃むりて紫のまよふをひく友流の 雅世

藤花移水

佐の江乃汀は松のかうりせに本よ友とくまは 雅政

池上藤

とよかかり汀の松かかるとりむもくまは 法宣

江藤

佐の江や松と浦風吹ぬまも松とくまは 藤兼

浦下藤

後さうと友乃まよひも滝の糸れ乱し情さ 後柏葉後

岸藤

松のり 後藤

藤花廻岸

佐の江乃松とくまは 宗雅

遠岸藤花

廻の字むいりて 宗成

友鏡菴

定なる 宗成

函栖藤

出栖の 政考

山家藤

友の 貞隆

隣家友花

友の 貞隆

戶外友

友の 貞隆

庭翫藤花

友の 貞隆

社以藤

友の 貞隆

古寺藤

友の 貞隆

藤花苗客

友の 貞隆

考友花述儀

友の 貞隆

い系藤

友の 貞隆

い系友花松

友の 貞隆

○暮春 并秋春 三月尽

沐生の定乃

後撰

くやしくそかむとむとる馴はる三月尽の有明の

有明

三月十五日の八がへて暮春

春の定乃

千載

むつねよもはるも小くも春のあつと知人そ

秋と出る言

秋集

あつとつむこのあつとぬらんれ秋と出る言

秋の衣立別

秋集

あつとつむこのあつとぬらんれ秋と出る言

春の衣立別

秋集

あつとつむこのあつとぬらんれ秋と出る言

花を乃名抄

同

とくちぬ別のとくちぬ名抄とくちぬ惜と暮小

花を乃名抄

日

花を乃名抄とくちぬ惜と暮小

此方知とくちぬ惜と暮小

いぬる春

春の衣立

●春の名抄 ●とくちぬ春 ●沐生のこれ ●くちぬ春 ●春乃これ

●つれかぐら ●春乃これ ●つれいづ ●とくち春 ●春れはらん

●とくち春 ●春ぞこれ ●つれ春 ●つれ春

暮春霞月

暮春風

暮春霞

暮春雲

暮春雨

暮春朝

山暮春

新後撰 暮春霞月 暮春風 暮春霞 暮春雲 暮春雨 暮春朝 山暮春

暮春水

江上暮春

川暮春

暮春海

暮春浦

山家暮春

暮春花

暮春鸟

暮春簾

暮春盃

暮春鐘

暮春如夢

暮春水  
西之  
おんもいふやうに流れては水も流るる春は甘味 道冬後

江上暮春  
抄後  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

川暮春  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

暮春海  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

暮春浦  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

山家暮春  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

暮春花  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

暮春鸟  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

暮春簾  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

暮春盃  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

暮春鐘  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

暮春如夢  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

旅宿暮春

舟中暮春

春欲暮

惜春

兼惜春

惜春夜涼

惜春不留

留春不留

惜春非一

惜春似友

旅宿暮春  
流集  
あゆむ我もさうらうり旅宿の如き月も春も志す春は定家 道冬後

舟中暮春  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

春欲暮  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

惜春  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

兼惜春  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

惜春夜涼  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

惜春不留  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

留春不留  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

惜春非一  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

惜春似友  
流集  
ありはく流の小舟の如き月も春も志す春は定家 道冬後

沙春

沙春少

春沙二日

歲時春尚少

雨中三月尽

三月尽夕

三月尽夜

行路三月尽

海路三月尽

困三月尽

旅宿三月尽

三月尽鶯

唐詩 沙春也やうやくきくふるの目殺ゆる

唐詩 沙春少 花のさけりきく日殺る有柳の月竹定

唐詩 春沙二日 花のさけりきく日殺る有柳の月竹定

唐詩 歲時春尚少 一年十二月乃内書三月なうていかなれ高安くさ

唐詩 雨中三月尽 年存り降る雨がうとくもきくもたよあかうり流 木は千屋

唐詩 三月尽夕 夕のきくはとくらの越志あつじ雲路あつるきくあひ院

唐詩 三月尽夜 夕のきくはとくらの越志あつじ雲路あつるきくあひ院

唐詩 行路三月尽 夕のきくはとくらの越志あつじ雲路あつるきくあひ院

唐詩 海路三月尽 夕のきくはとくらの越志あつじ雲路あつるきくあひ院

唐詩 困三月尽 夕のきくはとくらの越志あつじ雲路あつるきくあひ院

唐詩 旅宿三月尽 夕のきくはとくらの越志あつじ雲路あつるきくあひ院

唐詩 三月尽鶯 夕のきくはとくらの越志あつじ雲路あつるきくあひ院

